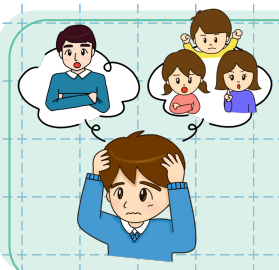
Vol.53

給食における個別対応はずるいこと？

～3つのポイントを伝えたら、ずるいの声は出てこない～



食べられない子や食に関する問題を抱えている子に対して、個別的な対応をしようと考える先生は多くいます。一方で、他の子どもたちや周りの職員から「ずるい」の声を恐れて、踏み切れないことはありませんか？今回は個別対応の必要性や、ずるいの声はどう解消するのかについて要点をお伝えします。

給食における個別的な対応は必要？

黒板の文字が見えない子を前の席に移動させるのと同様

給食における個別的な対応も
「特別扱い」ではなく「必要な支援」です

個別対応の必要性については、各省庁のガイドラインでも記載があり、必要なものという認識が必要です。

厚生労働省

『保育所における食事の提供ガイドライン』
34ページより

保育者等が子どもの身体発育・発達、食べる機能、食欲、味覚の発達過程を丹念に観察する能力をもつとともに、その発達状況に応じて、食品の種類、量、大きさ、固さ、食具等を配慮し、食に関わる体験が広がるよう工夫することが重要である。また、一人一人の月（年）齢、発育状態、日々の体調等の健康状態、生活リズム（睡眠）、保育時間、食物アレルギー等のきめ細かな対応、障害のある子どもの食べる機能の発達状態等、様々な状況に応じた個別対応が欠かせない（後略）

文部科学省

『食に関する指導手引き（第二次改訂版）』
234ページより

個別的な相談指導は、発育・発達期である児童生徒が健康に過ごすために必要であるとともに、将来に向けた望ましい食生活の形成を促すためにも重要であると言えます。（中略）また、個別的な相談指導は、学校全体で取り組み、対象となる児童生徒の抽出は、主に学級担任が行い、実際の指導は、栄養教諭が中心となり関係者と連携を取りながら実施します。（中略）学校では、偏食のある児童生徒、肥満・やせ傾向にある児童生徒、食物アレルギーを有する児童生徒、スポーツをしている児童生徒、食行動に問題を抱える児童生徒を対象とした個別的な相談指導が想定されます。また、栄養や食が関係する疾患を有する児童生徒についても、本人や関係者から相談指導の依頼があった場合は対応します。

周りからの「ずるい」の声を防ぐには？

理由があること

例：●●を食べたら、気持ち悪くなって吐いてしまった経験があり、そのときの嫌な記憶が残っている。

支援が必要なこと

例：無理に食べさせるのではなく、まずは安心して食事の時間を過せるサポートが必要。

チャレンジしていること

例：見る、においをかぐなど、その子なりに少しずつチャレンジしようとしている。

個別対応をしようとした時に、周りから「ずるい」の声が出るかもしれないと不安になることが多いかもしれません。その時には、以上の3つと共に、周囲に説明をすることが大切です。
この3つは、先生から他の先生に対してや、先生から子どもたちに対して、どちらに対しても応用できますので、参考にしてください。

詳しい解説記事はこちら！

きゅうけん 月刊給食指導研修資料
給食指導の情報を分かりやすく毎月公開！
給食指導　きゅうけん　検索
https://kyushoku.kyo-shi.co.jp